日本科学者会議

福岡支部ニュース

2008年6月25日発行 No.194

● 日本科学者会議事務局
〒113–0034 東京都文京区湯島 1–9–15
Tel (03)3812–1472
● 福岡支部事務局
事務局長　三好永作
〒816-8580 福岡県春日市春日公園６丁目１番地
九州大学大学院総合理工学研究院融合創造理工学部門
Tel : 092–583–8839, FAX : 092–583–7677
Email : miyoshi@asem.kyushu-u.ac.jp
郵便振替 01790-1-5576

目次

1　福岡支部 第38回定期大会の報告 ・・・・・・・・・ 1
2　権利・地位宣言」「倫理綱領」学習会の報告 ・・・・・・・・・ 9
4　福岡環境研究会のお知らせ ・・・・・・・・・ 10
5　「日本の科学者」読書会と夏期合宿のお知らせ ・・・・・・・・・ 12
6　エネルギー研究会のお知らせ ・・・・・・・・・ 12
7　次期大会の日程について ・・・・・・・・・ 12

1　日本科学者会議 福岡支部 第38回定期大会

2008年5月11日(日) 14〜15時
久留米大学福岡サテライト (アクロス福岡東オフィス５F)

1.1　2007年度活動報告

1.1.1　福岡支部活動記録

5/14　「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
5/14　福岡支部幹事会 (第1回), 於びおとーぷ
5/25　エネルギー研究会 (第9回), 於びおとーぷ
6/11　「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
6/16　エネルギー研究会 (第10回), 於びおとーぷ
6/20　支部ニュース No.190 発行
6/30　福岡環境研究会6月例会「学生の主体性を培う修学環境とは— 学生相談の視点から —」, 講師：田中健夫, 於久留米大学福岡サテライト
7/9　「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
7/28　福岡環境研究会7月例会「養護学校の体験から」, 講師：堤静雄
8/2　原水禁科学者集会於京都「北東アジアに非核兵器地帯を —核兵器廃絶への湯川の想いを引き継いで—」
8/5　JSA九州地区事務局会議, 於九州大学箱崎キャンパス
8/18　エネルギー研究会 (第11回), 於びおとーぷ
8/19〜20　「日本の科学者」読書会・夏の合宿, 於千石の郷 (早良区)
9/1　福岡環境研究会9月例会「電磁波の生体への影響と予防原則」, 講師：岡本良治, 於久留米大学福岡サテライト

9/3	福岡支部幹事会 (第 2 回), 於びおとーぷ
9/7〜10	JSA 公害環境問題研究委員会／定例会・シンポ, 於水俣市
9/10	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
9/22	エネルギー研究会 (第 12 回), 於びおとーぷ
10/8	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
10/13	エネルギー研究会 (第 13 回), 於びおとーぷ
10/17	支部ニュース No.191 発行
11/10	エネルギー研究会 (第 14 回), 於びおとーぷ
11/12	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
11/17	福岡環境研究会 11 月例会「自動車リサイクルの変遷と現状の課題」, 講師：古山隆, 於久留米大学福岡サテライト
12/2	院生・若手会員研究交流会, 於びおとーぷ
12/8〜9	第 25 回九州・沖縄シンポジウム, 於沖縄県那覇市八汐荘, 第 1 日「生活構造破壊」と地域の課題―私たちの安心・安全はどうなっているのか？, 第 2 日大学をめぐる情勢報告と討論／学問・科学からの告発―大学自治の「死」を越えて―
12/10	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
12/10	福岡支部幹事会 (第 3 回), 於びおとーぷ
12/22	エネルギー研究会 (第 15 回), 於びおとーぷ
1/5	福岡環境研究会 1 月例会「バイオエネルギー問題と食糧問題」, 講師：梅木利巳, 於久留米大学福岡サテライト
1/14	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
1/23	支部ニュース No.192 発行
1/26	エネルギー研究会 (第 16 回), 於びおとーぷ
2/4	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
2/4	福岡支部幹事会 (第 4 回), 於びおとーぷ
2/16	エネルギー研究会 (第 17 回), 於びおとーぷ
3/11	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
3/20	エネルギー研究会 (第 18 回), 於びおとーぷ
3/22	福岡環境研究会 3 月例会「農家から学んだ農業経営」, 講師：平川一郎, 於久留米大学福岡サテライト
4/14	「日本の科学者」読書会, 於びおとーぷ
4/19	エネルギー研究会 (第 19 回), 於びおとーぷ
その他	「日本の科学者／科学者つうしん」2007 年 6,8,10,12, 2008 年 3,4 月号

(注) びおとーぷ：福岡 NPO 共同事務所「びおとーぷ」

1.1.2 「日本の科学者」読書会

2003 年に始まった「読書会」は、最初はむしろ「日本の科学者」は従で、主は単行本 (新書) でした。現在では、場所も確定し (会員に経済的負担をかけていますが)、毎月「日本の科学者」を読んで、いろいろな専門の会員の間の討論を聞きながら楽しんでおります (しかし、毎月の「日本の科学者」を読み通すことは大変です)。今後の課題としては、読んで討論したものを評論としてまとめ、編集者へ (一部は主宰している藤井幹事が実践している) 返し、福岡支部の他の会員へ支部ニュースなどをつかって反映していくことだと思います。

1.1.3　福岡環境研究会

６月例会
テーマ：学生の主体性を培う修学環境とは ― 学生相談の視点から ―
講　師：田中健夫 (九州大学)
日　時：６月３０日（土曜日）午後５時～６時３０分
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

７月例会
テーマ：養護学校の体験から
講　師：堤　静雄（八女学院　非常勤講師）
日　時：７月２８日（土曜日）午後５時～６時３０分
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

９月例会
テーマ：電磁波の生体への影響と予防原則
講　師：岡本良治 (九州工業大学)
日　時：９月１日（土曜日）午後４時～５時３０分
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

１１月例会
テーマ：自動車リサイクルの変遷と現状の課題
講　師：古山　隆（九州大学大学院工学研究院・助教）
日　時：１１月１７日（土曜日）午後４時～５時３０分
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

１月例会
テーマ：バイオエネルギー問題と食糧問題
講　師：梅木利己（元九州国際大学教授）
日　時：１月５日（土曜日）午後４時～
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

３月例会
テーマ：農家から学んだ農業経営
講　師：平川　一郎（旧福岡県農業総合試験場・元九州東海大学教授）
日　時：３月２２日（土）１６：００～
場　所：久留米大学福岡サテライト
参加費：１００円

1.1.4　エネルギー研究会

福岡支部エネルギー研究会は「食料とエネルギー」をテーマに有志で勉強会を始めた。原則として月 1 回第 3 土曜日の 14：00～17：00 に開催している。参加者は個人会員を中心に毎回 5～8 名が集まっている。参加者の専門はエネルギー工学、農政経済、数学、金属工学、機械工学など多彩である。

5～12 月は中村太和著「自然エネルギー戦略」の読書会を行ない、経済的分析や各国・地域のエネル

ギー政策について議論した。また、必要に応じてエネルギーの基礎についても勉強した。1 月〜3 月は、日本の地理的特性に合った小水力エネルギーについて「小水力エネルギー読本」(小水力利用推進協議会編) を読みながら勉強した。4 月は「日本の科学者」特集：代替エネルギーの現状と課題について議論した。また、随時参加者個人の研究や、バイオエタノールなどの新しい話題・ニュースについても報告や議論を行なっている。

今年度の九州シンポ、第 17 回総学には纏まった研究を発表できるよう準備を進めている。本研究会への参加を歓迎します。

1.1.5　久留米分会

久留米分会は以下 2 回、共催で学習会を開催した。

1) 日時：6 月 16 日 14：30〜（2 時間程度）
場所：久留米市役所 3 階会議室
講師：佐藤悦子さん（城原川を考える会代表）
「ふるさとの川・城原川」＝ダムに拠らない治水を探る＝

現在城原川はダム建設計画が出されています
しかし地元住民は必ずしもダム建設を望んでいません
江戸時代から引き継がれた成富兵庫の治水方法
を使った洪水対策を大事にしたいと思う人も少なくないのです
ところが、洪水常襲地域の宅地開発に許可を出してして水浸しになる地域が出たり
従来の治水方法を無視した河川改修がされようとしています
歴史的な治水と現在行なわれている治水を比べながら
これからの「ダムに拠らない治水を探る」試みをかたっていただきます

2) 会員の馬奈木弁護士にお願いして筑後川水問題研究会と共催で学習会
電磁波学習会
2/16（土）14 時半〜
講師：馬奈木昭雄弁護士（久留米大学法科大学院教授）
会場：メルクス（久留米市労組会館、市役所近く）

1.1.6　北九州分会

分会としての活動は行えなかった。担当幹事が組合委員長と労働者過半数代表となり、余力がなかったのが主因。（九工大班では会員が中心となった懇談会を 3 月中旬に開催し、職場における男女共同参画の現状について意見交換した。）

1.1.7　九大理農班

特に活動を行なっていない。

1.1.8　九大文系班

特に活動を行なっていない。

1.1.9　九大六本松班

特に活動を行なっていない。

1.1.10　九大工学部班

エネルギー研究会や環境研を中心に活動を行なった。

1.1.11　その他の活動

新会員獲得と若手会員交流との行事として「院生・若手会員研究交流会」を行なった。2 名の院生会員から自身の研究テーマについて報告をしていただき、その後議論を行った。院生が 4 名 (会員 3 名)、自称若手会員 4 名、計 8 名の参加があった。残念ながら新会員獲得には至っていないが、分野を越えた交流、年輩の会員との議論も好評であった。できれば今後も続けていきたい。

沖縄で開催された九州シンポジウムには 2 名参加した。食糧問題や大学情勢について報告と意見交換を行なった。

会誌「日本の科学者」編集部より「科学者つうしん」への原稿執筆依頼が多く、1 年間で計 6 回の支部活動報告を行なった。

1.2　2008 年度活動方針

近年、環境研など研究会活動が中心になっている。その環境研のテーマを見ると、テーマ自体も多岐に渡り、また個別テーマも多くの専門にまたがった知見が必要になっている。物事には多くの側面がありそれぞれが専門的であるのは当然とも言えるが、多分野を横断的につなぐための場は、日本では唯一日本科学者会議しかない。まさに JSA の活動こそが今日の社会に必要とされている。多くの研究者が競争と評価に追われ自主性が奪われる中、また会員が減少している中での活動には困難が伴なう。しかし、地道な活動の継続によって事態を好転させよう。

(1) 平和・憲法に関するシンポジウムを開催する。
ここ数年間の世論調査で 9 条改憲反対が過半数を占めるようになってきている。その一方で、食糧やエネルギー資源の獲得競争など憲法の平和主義を生かすべき場面は多く存在する。今年度もシンポジウムを開催し、憲法を学ぶ取組みを行なう。

(2) 新会員獲得活動と班活動活性化を行なう。
手紙、電子メールなどを活用して知人に入会を勧める。また、研究会や班活動を活性化し、他団体との交流を深め会員を獲得する。

(3) 九州シンポを成功させる。
今年度は第 26 回九州・沖縄シンポジウムの担当地区である。開催日は 2008 年 10 月 4(土)〜5 日 (日) に仮決定した。第 17 回総学 (2008 年 11 月 22(土)〜24 日 (休)) のプレシンポと位置付けて開催し、地区活動から全国的な活動につなげる。

(4) 原水禁科学者集会など原水爆禁止運動に協力する。

1.3　新役員

事務局長	三好永作 (九大六本松班)
常任幹事	鈴木右文 (九大六本松班)
	中野豊 (九大理農班)
	青野雄太 (九大工学部班)
幹事	岡本良治 (北九州分会)
	河内俊英 (久留米分会)
	岸本誠 (個人会員)
	藤井哲 (個人会員)
会計監査	佐藤宣子 (九大理農班)
全国参与	杉浦實 (個人会員)
	森茂康 (個人会員)
全国幹事	三好永作 (事務局長)
びおとーぷ運営委員	青野雄太 (九大工学部班)

2　「憲法と平和について考える」シンポジウムの報告

ファスレーン基地での非暴力直接行動
三好永作

スコットランドのファスレーン基地には英国における全ての核兵器が存在している．そのファスレーン基地を 2006 年 10 月 1 日から 1 年間にわたって切れ目なく非暴力的に封鎖し，核兵器の危険性や浪費性をアピールし核兵器廃絶をめざす運動の一翼を担うため，2007 年 7 月 25-26 日に被爆者を含む日本隊がファスレーン基地での非暴力直接行動を行なった．その行動に参加し，逮捕されるという貴重な経験をすることとなった．それらの経験を経て考えたことを報告した．（本稿は，「科学・人間・社会」102 号 (2007.9) に発表した原稿に加筆・訂正をなしたものである）

日本チームの参加の意義と出発

スコットランドのグラスゴーから 50 キロ程離れたファスレーン基地には，英国における全てのトライデント核兵器システムが存在している．これまでもことあるごとに，非暴力直接行動による基地の封鎖がなされ，「トライデント・プラウシェアズ」をはじめとした英国の反核団体を中心として，核兵器に対する反対運動を展開してきた．英国の現在のトライデント核兵器システムは 2024 年に退役するため，英国政府はこの核兵器システムの更新をどうするかという決定をここ数年のうちにしなければならない状況にある．ファスレーン 365 は，この時期に，英国内のみでなく広く海外からも参加を呼びかけ，2006 年 10 月 1 日から 1 年間にわたって切れ目なくファスレーン基地を非暴力的に封鎖し，核兵器の危険性や浪費性をアピールし核兵器廃絶に支持を集め，その実現をめざす運動である [1].

英国政府は，同国の唯一の核兵器トライデント・システムを引き続き維持することを表明しているが，核兵器が配備されているスコットランドではこれに反対する世論が強まっている．5 月に実施されたスコットランド議会の選挙では，核兵器廃棄を基本政策に掲げるスコットランド国民党が第一党になり，党首のサモンド氏がスコットランド政府の首相に就任した．サモンド党首はスコットランドで核兵器を違法化すると発言しており，これからの運動次第では大きな前進が期待出来る状況にある．

英国の核弾頭は 200 発程度で 2 万発を超える全世界の核兵器の 1 %に満たず多いわけではないが，世界で 3 番目に核兵器を作った英国が非核化されることの意義は大きく，昨年 9 月にファスレーン 365 日本実行委員会（代表：佐賀大・豊島耕一教授）を立ち上げた．

英国の核兵器システムをどうするかは，北朝鮮の核問題と同様にすぐれて国際問題であるので，日本からのチームもファスレーン 365 に参加する十分な理由がある．それに加えて日本チームの参加の意義は，取分け次の二つに集約される．第一は，日本が核兵器の投下・爆発による唯一の被害国であるということである．この点では被爆者の参加が，特に重要となる．また，被爆の実相を伝える様々な写真や絵画または本などのメディアも必要となろう．第二は，日本があらゆる戦力と国の交戦権を認めない憲法 9 条を持っているという点である．憲法 9 条は多大な犠牲を払ったことで出来上がったものである．これらのことは時間的に前後するが，2007 年 8 月 6 日の平和宣言で秋葉広島市長が明確に語ってくれた．彼は，「唯一の被爆国である日本国政府には，まず謙虚に被爆の実相と被爆者の哲学を学び，それを世界に広める責任があります．特に，国際法により核兵器廃絶のため誠実に努力する義務を負う日本国政府は，世界に誇るべき平和憲法をあるがままに遵守し，米国の時代遅れで誤った政策にははっきり『ノー』と言うべきです」と述べ，安倍政権を強く叱責している．

平和憲法＝憲法 9 条については，それを遵守するだけでなく積極的に外交で活かせと秋葉広島市長は提言している．歴代の自民党を主とする支配層は，これまでこの憲法 9 条を蔑ろにするような政治を行なってきた．さらに，憲法 9 条を変えて海外で戦争できる国にしようという企みがある．そのような政治姿勢の結果として，歴代政府が憲法 9 条を外交の主軸において平和外交を展開するということは一度もなかった．このような憲法 9 条をめぐる捩じれた現状がある中でも，われわれ日本国民の多くは，しかし良い意味で平和文化の中に生活している．思えば十数年前，日本人の多くは米国ルイジアナ州のバ

トン・ルージュという町で服部剛丈君が迷って入りこんだ家の庭で射殺されるという事件に驚愕し，自己防衛のために個人が銃を使用することを当然とする米国の銃文化に大きなショックを受けた．個人はいくら自己防衛のためとはいえ武器（銃）を行使して人を殺傷してはならないというコンセプトから成立つ日本文化は，国家レベルの平和主義＝憲法９条と根本において繋がっている [2] と思う．核兵器は言うまでもなく最悪の武器である．自己防衛のためとはいえ武器を持たないという日本の平和文化の要である「憲法９条の輸出」が英国の核兵器廃絶に多いに役立つと期待したい．それを市民のレベルで行なう意義は大きい．また，その反作用が日本での「９条を守る」運動に良い影響を与えるだろう．

このようなことを目標にして，7 月 22 日と 23 日に分けて日本チームは，スコットランドに向けて出発した．メンバーは，長崎から被爆者を含む 5 名，福岡から大学教員，語学学校教師など 5 名，広島の大学院生，東京の主婦それぞれ 1 名，計 12 名である．日本チームのファスレーン封鎖は，7 月 25〜26 日が予定されている．

封鎖，そして逮捕

7 月 24 日の夕方，ファスレーンに近いロッホ・ローモント・ユースホステルに全員が揃った．天井が高くて広いミーティングルームで中華料理を食べながら，今回の日本チームのコーディネータ，レベッカ・ジョンソンさんの司会で自己紹介が行われた．続いて逮捕されたときの注意を含めて明日の作戦会議となった．翌日の封鎖にはフィンランドからの学生で国際関係論を学んでいるアンナ＝リネア・ルンドベルグさんが参加するという．これで総勢 13 名の封鎖になる．また，11 時頃に平和運動に熱心なクェーカー教徒の団体が我々の封鎖を支援に来てくれるとのことである．力強い限りだ．会議の後，封鎖の手順について若干の予行演習を行なった．

翌日朝 6 時頃，目が覚める．朝から小雨が降っている．7 時半から全員での朝食になる．朝食後，ファスレーン 365 における非暴力についての５つの約束を代表が読み上げて確認する．(1) 他の人に対して常に誠実で敬意を払う，(2) 物理的暴力や言葉の暴力に訴えない，(3) 武器を持たない，(4) 医療目的以外のアルコール・麻薬を持ち込まず使わない，(5) 緊急用車両に対しては封鎖を解き，その後再開する．これらの５点を守れなければ，ファスレーン 365 に参加する資格は無いということである．

小雨の中をファスレーン基地に小型バスで向かう．途中でファスレーン基地の全体を見渡せる小高い展望台から基地を観察し写真を撮る．かすかに潜水艦の頭の部分が見える．英海軍のトライデント核兵器システムを搭載する潜水艦「バンガード」四隻のうち少なくとも一隻は現在ファスレーンに停泊しているようだ．いよいよ対決である．警察の車が我々の小型バスの後ろに停止して我々の様子を見ている．朝から厳しくマークしているようだ．警察官に軽く挨拶をし，ファスレーンから数マイル北にあるクールポート核兵器弾薬庫をみて，ファスレーンに引き返した．バスを降りたところで，本日のイベントで大切な被爆を写した写真と絵のパネルを忘れたことに気付く．アンナのボーイフレンドのアダムに運転してもらい，ロッホ・ローモント・ユースホステルまで引き返した．運んできた写真と絵のパネルに準備してきた英語の説明を両面テープで取り付け，その中の一枚を並べながら，うつろな顔をした少女の背後にあるしゃれこうべが彼女の母親だということを一人の警官に説明したら，真顔で頷いてくれた．雨は幸いにも上がったようだ．

逮捕の危険性の高いロックオン [3] のメンバーが昨夜から一部変化したため，改めて素早いロックオンの練習をすることになり，メンバー５名が北正門から少し離れたファスレーン・キャンプ・サイトの奥まで入って竹筒を使ったロックオンの練習をすることにする．３人組（広島からのU君，アンナ，私）と２人組（長崎からの森口正彦さんと代表）に別れ二回の練習をした．二回とも上手く行き首尾は上々．３本の竹筒をグランドシートに包み，車を基地の北正門の近くに停め，警察に気付かれないよう低いフェンスの内側に置くことに成功した．北正門に帰って来たのは午後 1 時頃であったが，すでに，クェーカー教徒が百名程度集まり，歩道と低いフェンスの内側で瞑想しているところであった．

瞑想の終りの方で，森口貢さんが長崎から持ってきた「平和の水」[4] を，平和を希求するあなた達に捧げますといいながら，一人一人の手にかけていった．厳かな儀式になった．一人一人は老いも若きも真剣に水を受けている．クェーカー教徒の長い瞑想が終り，昼食になったのは一時半頃であった．パンとチーズ，牛乳ですませた．クェーカー教徒の人々から握手を求められ，遠い日本から来てくれて有難

うとお礼を言われた．代表格の人から，写真と絵のパネルは非常にパワフルで，特に若い世代の心を動かしている，パネルの写真を撮ってもよいかと言われた．喜んで撮って下さいと答えた．アンナが一つの写真の前で顔を真っ赤にして涙を流し感じ入っているところを見かけた．それを見ただけで，重くて持ち難い写真と絵のパネルを持ってきた甲斐があったと私の方でも感じ入った．あとでアダムがパネルを一枚一枚丁寧にカメラに収めていた．

昼食後，いよいよ我々のパフォーマンスが始まった．レベッカさんが白血病で死んだ少女サダコの話しから起し，折り鶴に繋げ，平和のシンボルとしての折り鶴で北正門を封鎖するパフォーマンスが続いた．警察が置かれた折り鶴を片付けるとともに行動を制止したことから，座り込みに移行した．警察の注意がこの座り込みにいっている今が，我々５名のロックオンのパフォーマンスのタイミングである．座り込み隊の後ろへ竹筒を持ってロックオンを試みた．少し出遅れた３名はロックオンに入る前に警察に捕まってしまった．唯一成功したロックオンは私とアンナのものであった．３名はそれぞれの場所でスコットランドの警官に捕らえられているが，何故か，警官も含めて車道上で静止した状態のまま動かない．まるで警察も封鎖に協力しているようにすら思える．代表は捕らえられた状態で憲法９条を英訳したバナーをかざしている．完全なロックオンには，手に括り付けているカラビナを連結する必要がある．アンナと私はカラビナで連結するだけでなく，手を絡めてお互いにこのロックオンを頑張ろうという仲間としての合図を送った． 暫くしてカッティングの専門部隊が到着し，竹筒が切り開かれアンナの指と私の指が離され，別々に近くに停車している警察の車に連れていかれた．私は，”stand up please, sir”と警察にいわれ，ほぼ条件反射的に簡単に”yes”と答えてしまった．せめてもの抵抗は”just a moment”と言って，降り懸かった竹屑などをわざとゆっくり振り払ってから立ち上がったくらいで，立ち上がってからも警察の車まで自らのこのこと歩いていってしまった．一方，アンナは立派であった．横になったままで，警察の命令にも自らは何もせず抵抗を試みた．４名の警官が彼女の身体を抱えて車まで運ぶことでもいくらかの時間を掛けさせた．斯くて 2 時 10 分頃から始まった我々のパフォーマンスは５名の逮捕者を出して 3 時には終了した．

取り調べ，そして独房へ

近くの警察のプレハブ作りの臨時出張所のようなところまで車で連れて行かれた．逮捕された現場から車が出発するとき歩道から皆がこちらの車の方を見ているので，手を振ったら日本チームの皆だけでなくクェーカー教徒の人々も熱烈に手を振ってくれた．私も調子に乗ってすっかり英雄気分になり手を振り続けた．私はまったくお調子者だと思ってしまった．簡単な取り調べの後，ポラロイドカメラで写真を撮られた．既に３名が乗り込んでいる車に案内された．お互いに今日の作戦は成功であったと総括し，最後にアンナが同乗してきてさらに健闘を讃え合った．車はグラスゴー近くのクライドバンク市にあるストラスクライド警察署まで直行した．ヘレンズバラの町を通るときには，海を挟んだ対岸にグリーノックの町が見えた．

クライドバンク警察について，女性のアンナだけが別の部屋で取り調べを受けるため先に連れて行かれた．日本語通訳の到着までの間，男四人は窓の無い部屋に入れられしばらく待機させられた．その間にU君は，部屋の入口に陣取っている若い警官に何処で生れたとか，サッカーはどのチームが好きかとか盛んに話しかけている．後でそのことを尋ねたら，代表がカメラで室内を撮ろうとしていることに気付き，警官の注意を逸らす為に質問したとのことであった．そのU君の質問に若い警官はいちいちまともに答えている．ここスコットランドの警官は，誰もフレンドリーで素直で好感が持てる．

クライドバンク警察での取り調べでは，まず，ズボンのバンドが取上げられた．眼鏡は独房内で必要かと聞かれ，是非とも必要だと答えたら，それなら OK とのことであった．ポケットの中のものは，ハンカチとメガネふき，歯ブラシ以外はすべて取上げられ，紙類，カメラ，財布（金額を確認して），時計など整理され，紙袋に入れられた．明日，出るとき全部をキチンと返すとのことであった．あなたの罪は”breach of the peace”（秩序違反）であるが，そのことが分かるかと質問があり，それに対して，私は遠い日本から平和のためにやって来たのであり，あなたの言った理由は理解できないと言い返した．しかし，とっさのことであり，平和を乱しているのは人道法違反のトライデント核兵器システムの更新を表明している英国政府であるという，一言を言いわすれてしまった．翌日話しを伺ったところで

は，長崎からの森口正彦さんはしっかりその点を主張されたとのことである．反核の思いの深さに恐れ入った．

いよいよ独房内に入った．U君はすぐ前の独房に入っているようだ．独房ではブザーを押すと直ぐに看守が来てくれる．直ぐにトイレットペーパーを要求した．便器は，便座の部分が外されており，下の便器の平たい部分が剥き出しになっている．その点以外は，水洗でありまた清潔であることがあり難い．天井を見上げると，その中央に 1 メートル平方の部分が透明のタイル張り（全部で 36 枚）になっている．そこから入り込んでいるのは外からの光のようだ．独房の広さは 2 メートル× 3 メートルの程度で，入口の直ぐ左に先ほどの便器がある．奥には，10 センチ弱程高くなったところにマットが置いてある．これがベッドのようようだ．頭に当る部分がさらに数センチ高くなっており，そこにマットが掛かっているので，それが自然に枕になっている．他は何もない．壁はコンクリートで淡いピンクの塗料が塗ってあり，手でコンコンと叩いても音がしない．天井の塗料は何故か白である．ドアのペンキは深い青であり，床はチョコレート色である．

独房内に入る直前は，ここからほぼ 1 日は出ることが出来ないのかということを考えて，閉所恐怖症の兆候が出てくるかと感じられた．独房内に入って今日の行動を振り返ったり，独房内の観察をしたり，この文章を書いたりしていると，不思議に心が落ち着いて，また，自由な精神活動を感じることが出来るようになった．夕食は 10 センチ× 20 センチ位の容器にズッキーニなどの野菜をいため幅広のパスタで包んだようなものがあり，これは結構美味しかった．あとは，ニンジンとグリーンピースのミックス野菜の冷凍食品と 3 個の丸ごとのポテトであった．全体が温めてくれてあるので，美味しく頂けた．また，量も私にとっては十分であった．若者のU君にとっては，とても足りない量だろうなと想像した．

天井の透明タイルからの光も無くなってからかなりの時間が経過しているので，もう 11 時は過ぎているだろう．看守に消灯を要求して寝ることにした．今日はいろいろなことがあった．

独房二日目，釈放そして交流会

翌日は天井のタイルがまだ暗いうちに目が覚めた．何時か分からない．一昨日の朝は 5 時にはもう明るかったので，それより若い時間である．しかし，頭が比較的はっきりしているので，もう起きることにして，ボタンを押して看守を呼んでライトを要求した．しばらくして，コップ二つの水を要求して時間を聞いたら 4 時半だと教えてくれた．5 時間程度は寝たことになるだろう．

これから，この独房を出るまで，何時間あるか分からないが，自由な思考の時間を持てるということを思うと何だかわくわくする．独房を出るまでのこの自由な時間をせいぜい楽しむことにしよう．それにしても日常の生活では，これほどの贅沢な時間が取れないのは何故だろう．大学では，欲しくもない用事で電話が掛かってくる，頻繁な会議で時間が切れ切れになる．家庭では，テレビが思考を妨げる．早朝の新聞の来る時間には，新聞を取りに行って読まなければ気が済まない．思えば世の中の出来事に振りまわされているようだ．それだけではない，大学や学会関連の年間スケジュールが敷かれている中で，月単位や週単位のスケジュールがそれこそビッシリと詰まっている．もし，自由な時間が出来たとしても次のスケジュールをどうこなすかということに考えがついつい向かってしまう．何をすることも要求されない自由な時間，また，誰からも邪魔されることもなく世の中の動きも気にならない，必要になれば，こちらから鉛筆や紙また水を要求すれば直ぐに看守がもって来てくれる．こんな時間を一週間も貰えば，いくらでも論文が書けるような気がする．

天井のタイル越しに空が白み始めているのが感じられる．まだ，5 時にはなっていないようだが，今日の天気はどうだろう．よい天気になってくれればよいが．また，今日の行動はどんな段取りなっているのか．少し心配になる．日本は今ごろ，何日の何時だろう．いま，ここスコットランドで 7 月 26 日の朝の 5 時前なので，8 時間たすと 7 月 26 日の午後 1 時ということになる（英国はいま夏時間）．参議院選挙の 3 日前である．今度の選挙では自民・公明の大きな敗退で安倍「ボンボン」内閣政治の流れが大きく変わって欲しいものだ．いつの間にか思考が俗事に走っている．なかなか，自由な思考の時間を有効に使うことは結構難しいことのようだ．

腹時計による推定で 7 時頃，看守が私のドアを大きく開けて覗いているので，思わず”Am I free

now?”と叫んでしまった．私は，まだまだ，色々な煩悩から逃れられず，自由な思考の出来る独房よりも，様々な雑事に追い回されるシャバの方が良いと思っている俗物であるということに改めて気付かされることになった．自由な時間もよいが，シャバの雑事も普段考えているほど悪いものでないということではないだろうか．普段には無い自由にあこがれながらも，日常の雑事をどれだけうまくこなし精いっぱい生きることが人間にとっては大切なのではなのではないか．

8 時半過ぎに朝食が来た．朝食はソーセージ２本にポテトを細かく切って揚げたものとコーンに 7 センチ直径程度の黒くて厚い煎餅のようなものであった．英国風のまっ黒な紅茶もついてきた．これはまさに black tea である．紅茶の香りが全くない．どれもまずかったが，温かいので何とか食べることが出来た．朝食後，天井からの光をみると，太陽が出ているように明るい．今日の行動はどうなるのだろうか．我々 5 名がいないので，残りは 8 名である．日本チーム 8 名でどんな行動が出来るだろうか？ 5 名の釈放はいずれ昼食後になるだろうと思われるので，北正面で写真パネルを展示しながら，警察官達との友好的な会話でもすればよいのではないか．

12 時をかなり過ぎたと思われる頃，看守が顔を洗いたいかと聞きに来た，顔も手もべたべたしており，特に手のべたつきがひどかったので喜んでついて行った．湯と水の出る洗面台で両者を満たしてぬるま湯として，石鹸でたっぷり泡立てて，まず初めに顔を洗い，次に手の裏表を丁寧に洗った．安全カミソリを出してくれたので，久しぶりにカミソリを使ってヒゲを剃ってみた．

もう 1 時はかなり過ぎていると思うが，昼食が中々出てこない．どうなっているのだろうか．昼食なしで独房から出すということか？と思っている間に看守がドアを慌ただしく開け，私の運動靴を投げ入れ，”Two minutes”と言ってまた出ていった．2 分後に散歩をさせるつもりだけなのかと疑い始めたとき，ドアが開いて来いという．隣の独房の前に代表も立っており，同時に出されるようだ．昨日預けたものを受け取り，看守に先導されレベッカさんに電話連絡しなければと代表と相談しながらドアを抜けると，そこは警察署のロビーで日本チームの全員とレベッカさん，アンナが待っていた．代表と私の二名が最後の釈放であったようだ．ここでも皆に歓迎され，またまた，英雄気分になってしまう．

クライドバンク警察を出てヘレンズバラまで戻り遅い昼食をとることになった．そこで地元の新聞を数紙買い，その報道に見入った．どの報道もただ単に 5 名の逮捕者が出たというだけの記事ではなく，遠い日本から何のために日本チームがスコットランドに来たのか，また，一人一人が何を訴えているかということを中心に写真入りで報道してくれている．あり難い限りだ．

昼食後，ヘレンズバラの反核の市民グループとの交流会がもたれ，広島・長崎の被爆 40 周年を記念してヘレンズバラの小学生によって植樹された桜の木に長崎からの「平和の水」をかける儀式を含めて日本チームのメッセージを伝えた．また，「原爆許すまじ」の歌詞の紹介も行なった．多くの人に集まって頂いたが時間がなく，十分な意見交流が出来なかったのは残念であった．その点では翌日昼に行われたエディンバラでの交流会は，写真と絵のパネルを見てもらえたし，芝生の上でそれぞれに意見交流が出来て良かった．中心的なメンバーの一人に日本の憲法９条を知っているかと聞いてみたが知らなかったので，憲法９条の説明をした．また，持って行った全部で 21 枚のパネルもエディンバラの Peace & Justice Resource Centre というところで有効に使って頂くということで寄贈することにした．今後，これらのパネルがエディンバラやグラスゴーでの反核運動に少しでも寄与することを願いながらエディンバラ・ウェイバーレイ駅を後にした．

おわりに

帰国した後，友人の一人から何というバカな行動で，そんなことより「原爆投下が日本の敗戦を早め百万人の命を救った」という説得力のある米国の言い分を打ち破るような論理を構築することの方が大切なのではないかと言われた．友人には以下のようなメールを送った．

『この米国の言い分は，米国政府が作り出したプロパガンダであり，何の説得力もないと私は考えています．第一に，一般市民をターゲットにした原爆投下は如何なる理由にしろ人道上許されるべきではありません．また，米国の言い分に賛同できる被爆者やその親類縁者の日本人がいるとも思えません．米国内の各地において市民レベルで行なわれている原爆展で，原爆投下がもたらす被害の大きさが認識され，原爆投下＝人道上許されないもの，という考えが広がっているという話も聞きます．　第二に，原

爆投下が「百万人の人命を救う」ために決定されたのではないということです．原爆投下の決定は軍事作戦上からされたのではなく戦後の対ソ戦略上の政治的目的からなされたものです．現に当時の責任者であったアイゼンハワー将軍は，対日戦の勝利には原爆の使用は不必要であるとトルーマン大統領に進言しています．　第三に，原爆投下が当時の日本の支配層にポツダム宣言受諾を決意させた主要因であるか，という問題です．原爆を落とされたから日本が負けたと多くの人が考えているようですが，私は，この点は大いに事実とは違うと思っています．当時の日本の支配層の最大の関心事は，国体護持（天皇制の存続）でした．国体護持ということに関して原爆投下はほとんど影響を与えませんでした．しかし，長崎に２回目の原爆が落とされた８月９日の午前零時にソ連が対日参戦したことで，日本の支配層は国体護持が危機に瀕したことを悟りました．戦後処理にソ連が発言力を増せば天皇制の存続はほぼ絶望的です．ソ連の対日参戦はヤルタ密約で米英に要請されてのことでしたが，米国はその前に決着を付けるべく原爆を使いました．原爆投下では活発化しなかった終戦工作でしたが，ソ連の対日参戦の報を聞いた近衛文麿は，軍部を押さえるためにはこれは「天佑であるかもしれん」と考えたということです．８月１０日の御前会議で国体護持を条件にポツダム宣言受諾が決まったのでした．　このような経過を見ると，ソ連の対日参戦と原爆投下のどちらがポツダム宣言受諾という日本の敗戦を早めたかについてはケタ違いに前者の重要性が浮き彫りになると思います．また，ソ連の対日参戦は，米軍の戦死者を減らすために千島列島をソ連に渡すとこを条件にルーズベルトがスターリンに要請したものですが，歴史の皮肉ですね.「ソ連の対日参戦が日本の敗戦を早め百万人の命を救った」と言った方がより正確と思います.』

しかし，友人が言うようにアメリカの言い分は，多くの日本人を何となく納得させる力があるように見える．現に昨年７月，ジョセフ核軍縮担当米国大使がこの発言をした時，日本を代表する政府高官や多くの政治家は反応が鈍かった.「原爆投下はしょうがない」とさえ元防衛大臣は言った．しかし，この米国高官の発言を認めることは，再び原爆投下があることを認めることになるのではないか．このような点にかんしいてプロの政治家は余りにも鈍感である．被爆国日本を代表する政府のなすべきことは，原爆投下を批判しこのような発言の撤回や謝罪を要求することであると考える．日本政府がこのようなことをしないのであれば，被爆者を始めとした市民レベルの運動に残された課題は大きい.

友人にバカな行動と言われた今回の日本チームの行動は，準備不足もあり反省すべき点も少なからずあったが，現地では大成功であり，所期の目標を達成できたと思う．残念ながら，このような直接行動は日本ではまだまだ難しい．しかし，核兵器廃絶が出来ないような人類は，数十年の内に滅亡の危機に瀕すると私は思う．また，憲法９条の改悪を許してしまうようでは，日本の将来は大変に暗いものに成るだろう．我が子供達やその子供達にそのような暗い未来を渡すわけにはいかない．いま大変な状況にある沖縄・辺能古の非暴力直接運動とも連帯して，明るい未来を子々孫々に渡すためにも今回の経験を活かしていきたいと考えている.

[1] 「科学・人間・社会」101 号の豊島耕一氏の論文を参照.
[2] 奥平康弘著「いかそう日本国憲法」（岩波ジュニア新書）
[3] １メートルの筒を使い，その中で登山用のカラビナ同士で連結し，これを解くには筒を長軸方向に切り裂く以外に方法がないようにすること.
[4] 長崎からのグループが爆心地の泉で採取し持ってきた水.

3　福岡環境研究会のお知らせ

６月例会

テーマ：目から鱗の長生き免疫学
講　師：浦川豊彦 (医学博士、元オックスフォード大学・ロンドン大学上級研究員)
　　日ポリ化工（株）温熱療法研究室主任研究員
日　時：6 月 29 日 (日)15 時〜17 時
場　所：久留米大学福岡サテライト (アクロス福岡・東オフィス５階)

お問合せ先：福岡環境研究会事務局
河内俊英　0942-35-3311(久留米大学医学部)
近藤加代子
参加費：１００円
【要約】
免疫学は、19 世紀半ばからパスツールを開祖として急速に発 展してきました。ワクチンや抗血清の実用化です。20 世紀後半には胸腺リンパの役割が解明され、細胞間伝達物質のインターフェロンを含むサトカインが次々に発見されました。更にゲノム時代になって、遺伝子・分子レベルの研究が進み、免疫現 象のすべてが解明されるかのように見えました。ところが現実は、アトピーや花 粉症をはじめアレルギー性疾患・難病が爆発的に増え、ステロイドや鎮痛剤での 症状緩和を主眼とする臓器別・分析的西洋医学では治癒に到りません。この *「木を見て森を見ず」の現代医科免疫学*の反省として生まれたのが、全体像 をとらえる画期的な免疫学です。それは 1995 年頃、新潟大学の安保 (あ ぼ) 教授らが自律神経系と免疫系との間には以前考えられた以上に密接な関係があることを解明 した*「白血球の自律神経支配の法則」*です。この新しい免疫学は *心と体をつなぐ*「*自律神経免疫学*」もしくは、共同発見者の名前を冠して「福田 -安保」理論とも呼ばれています。即ち大脳皮質の高度な精神活動である心のありよう が、大脳辺縁系、視床下部、次いで自律神経系を経由して免疫系に強く影響して いることが明らかになりました。同時に、免疫システムが古い免疫系と、生物の 上陸後に新たに付け加わった胸腺経由の新しい免疫系との二重構造になっている ことを解明しました。肩こりから癌までの病因として、過剰ストレス→交感神経 の緊張持続→アドレナリン過剰分泌→血流低下・低体温と顆粒球増多→活性酸素放 出→組織破壊・臓器障害→慢性疾患→短命を明らかにすると同時に、リラックスの 副交感神経刺激によってリンパ球とのバランスを取ることで治癒・長寿への道筋を 明らかにしたのです。本格的な高齢化社会を迎えようとする中で、この免疫学は 薬に頼らず自己治癒力を引き出す理論的基礎となることが予想されます。

4　「日本の科学者」読書会・夏期合宿のお知らせ

「日本の科学者」読書会の合宿を，昨年と同じ早良区の湧水千石の郷で，８月２２日２３日に行います．今年は特定のテーマを決めず，会員の研究，活動経験，旅行での感想等自由に発表することになると思います．現在のところ１０名の参加を見込んで宿泊の予約をしています．参加希望者は幹事の藤井まで申し込みください．e-mail:t.fujii@mms.bbiq.jp

(藤井　哲)

5　次期大会の日程について

幹事会では次期大会の日程を 2009 年 5 月 10 日に仮決定しました。また、会場は福岡市内を予定しております。皆様、万障お繰り合わせの上、御参集下さい。